地方小出版 情報誌
アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体136円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

「私の後継者は、用水路だ」
― 中村哲医師の１周忌を前に ― ☆

文・福元満治（石風社代表　ペシャワール会広報担当理事）

マルワリード用水路の取水口で中村さんと筆者（右）

中村医師が銃弾に斃れる

昨年の１２月４日、中村哲医師と５人のアフガン人が何者かの銃弾に斃れて一年が過ぎようとしている。

当日私は石風社の事務所で事件発生の連絡を受け、ペシャワール会の事務局に急いだ。日本時間午後１２時過ぎ、現地時間午前８時頃である。中村医師はジャララバードの宿舎から２台の車で作業現場に向かう途中街道筋のバザールで武装グループに銃撃されたが、命に別状はないとのことであった。大牟田市にある留守宅に電話するとともに、記者会見の準備を整えた。その日は、ペシャワール会報の発送日にあたっており、事務所には会のボランティアの方々も大勢おり、駆けつけた新聞テレビの記者でごった返しはじめた。私は昨年６月に会の事務局長を退任していたが広報担当理事であったので、マスコミ取材の前面に立たざるをえなかった。

一回目の記者会見が終わったあと外信（AFPだったと思う）から電話で中村医師が亡くなったと告げられた。命に別状はない、集中治療室で治療を受け、ヘリでカブールの米軍基地の病院で手術を受ける手筈と聞いていたので、「そんなはずはない」と答えたが、そのあとアフガンの現地スタッフから中村医師が亡くなったことが伝えられて来た。中村医師の他、ドライバーと４人のガードも亡くなったことを知らされた。呆然としながら、二度目の記者会見の準備にとりかかり、中村医師の奥様にその旨を電話した。私の脳裏には、２００８年８月２６日にアフガニスタンのブディアライ村で武装集団に拉致され亡くなった伊藤和也君のことがまざまざと甦っていた。

事業継続

私は記者会見の席で、「現地事業の継続」を強調した。現地で実施されている診療所の運営、農業支援、灌漑用水路建設の３つの事業が、中村医師が現地PMSスタッフ(平和医療団・日本　現地職員１００人　作業員３００人)とともに展開しているプロジェクトで、それを継続することが最大のミッションだからである。中村医師のご遺体の搬送や日本側から現地への出迎えに現地スタッフの同行来日など、外務省の邦人テロ対策課や在アフガン日本大使館と連絡を取りながらことを進めていった。時間外にも関わらず外務省、大使館ともに迅速に対応していただいた。

私は、おもにマスコミとの折衝にあたったのだが、マスコミの幹事社に要求したのはただひとつ、残された家族への配慮だった。福岡市在社のマスメディアは、私たちの申し出を聞き入れ概ね強引な取材もなく混乱はなかった。

現地事業体PMSスタッフも来日し、中村医師のあとをペシャワール会会長が継いでPMS総院長となり、現地と緊密な連携をとりながら現地事業を継続することが決められた。その間、日本側事務局は中村医師の葬儀とお別れ会の準備のために事務局長を先頭に大車輪の日々が始まった。

１２月１１日に行われた葬儀には、全国から２０００人近い人が集まり、葬儀場の外まで人があふれた。年が明けて１月２５日に行われた「お別れ

会」は、２４００の席を用意したが、５０００人以上の方が訪れて、会場の外は長蛇の列となった。訃報を聞いて居ても立ってもいられなかったと、北海道から沖縄まで多くの人々が駆けつけてくださった。

その存在と事業が心を揺さぶる

ペシャワール会の会員はもちろんだが、それまで中村医師のことを知らなかった皆さんの受けたショックは深く、中村医師という存在にこころ揺さぶられていることが感受された。日本中の多くの方々が中村医師の死に衝撃を受けたのは、その事件の理不尽さだけではなかった。事件とともに、中村医師がこれまでアフガニスタンで実践して来た事業の概要が報道されると「今時こんな日本人がいたのか」といったような驚きだったと思う。私は複数の方から「自分の生き方をガツンと問われた」という言葉を聞いた。

中村医師は１９８４年からハンセン病の診療に携わるとともに、パキスタン・アフガニスタンで１０カ所の診療所を設立し、２０００年から大旱魃が進行すると１６００本の井戸を掘った。さらに２００３年3月１９日には、灌漑用水路の建設に着手したのである。折しも翌日からはブッシュ政権がイラクへの侵攻を始めた日だった。中村医師はその用水路の設計施工も自ら行い、はては現場で率先指揮をとり重機まで操作したのである。

アフガニスタンという国は、大英帝国の侵攻にはじまり、旧ソビエトのアフガン戦争（１９７９年～１９８９年）で２００万人の死者と６００万人の難民を出している。２００１年の１０月からは、９．１１同時多発テロへの報復として、米軍の空爆を受け続けている。しかし９．１１の１９人の実行犯のなかには一人のアフガン人もいない（うち１５人はサウジアラビア人）にも関わらず「悪のタリバン対自由と正義のアメリカ」という構図が国際社会では形成されていた。そのような国際社会の虚構に対して、中村医師はひたすら自らの「事業」で立ち向かおうとしたのである。

中村医師は、２７キロのマルワリード用水路を含め９つの取水口をつくった。関連の給水路・排水路を併せると１００キロを超える。護岸の植樹は１１０万本。（日本の江戸時代に完成された）伝統工法による灌漑地は１６５００ヘクタール、東京ドーム３５００個分の広さで、約６０万人の生活空間を確保している。この灌漑用水路で農地が回復するまで、農民は難民になるか米軍や武装集団の傭兵となるしかなく、治安は極度に悪化していたのである。中村医師は、スローガンとしての「平和構築」を一切掲げなかったが、灌漑用水路の竣工によって砂漠化した荒野が沃野となり、難民や傭兵の多くが帰農することで治安は安定に向かった。国際社会から見ると、テロのイメージしかないアフガニスタンだが、人口のうち８割は農民で旱魃以前には穀物自給率９３％という豊かな農業国だったのである。中村医師が目指したことは極めてシンプルで「農民が家族一緒に３度の食事をとり穏やかに暮らせる」ということだった。

日本にも世界にも良心的な医師はたくさんいらっしゃる。しかし途上国の文化・宗教・習俗を尊重しつつ土地の人々の自立の道を現実化した医者は稀ではなかろうか。中村医師はこうも言っている。「飢えと渇きは薬では治せない。百の診療所より一本の用水路を」

アフガニスタン東部スランプールでの中村医師　用水路に水が通った直後（２００５年８月）

同じ場所　数年後

事件についてその真相はいまだに明らかではない。犯人も捕まっていない。私に言えることは、世界には「治安の安定を欲しない人々や組織が存在する」ということだけである。

〈関係の深さ〉に嫉妬する

私がペシャワール会に関わり始めて３０年以上が経った。その間中村医師の主要著書をはじめ１０冊ほどの関連書籍を発行している。中村医師の著作については、他の出版社の書籍をはじめ、新聞雑誌の原稿やインタビューに対談まで、ほぼ全ての出版活動に関わった。ただペシャワール会の存在については１９８３年のその発足当時から知ってはいたが、１９８７年までは一切関わっていない。パキスタンのペシャワールに赴き、貧困層のハンセン病診療に携わる医師のいることは新聞などで知っていた。ただそういう美しい話は自分には縁のないことと考えていたのだ。

私はいわゆる全共闘世代である。ご多分に漏れず学生時代には騒動に関わったが、政治党派的な運動にはなじまない学生だった。全国で期せずして起こったあの運動は、均質化し社会化されることへの身を以てする抗いだったのだ、と今は思っている。騒動が終息すると、縁があって石牟礼道子さんや渡辺京二さんが組織した水俣病闘争の一兵卒となった。１９７３年その闘争が一段落すると、福岡の出版社で働いたが、７年半ほどで煮詰まってしまい１９８１年に退社して独立した。

独立と言えば体裁がいいが、実質は志も見通しもない出発で他に出来ることがないので、木造モルタルの布団屋の二階に事務所を借りたのである。最初の数年は仕事のないひとり編集プロダクションのようなものだった。冬になると換気扇から雪が吹き込む事務所で、春になると昼寝をするか近所にある福岡城趾で野草を摘んでタンポポ酒などをつくっていた。そうこうするうちに世の中バブルになった。ペシャワール会の初期の時期も、「プラザ合意」のドル高是正によるバブルとかぶっている。

私が中村医師のことをきちんと認識したのは、１９８７年のことである。地元の西日本新聞が中村医師のエッセイの連載を始めたのである。連載何回目かのエッセイは「ふるさと」というタイトルで、アフガン難民でハンセン病の少年の話だった。中村医師が回診で「おい、まだいのちがあるかい」と声をかけると、「先生、私のいのちはあるけれど、完全ではないですよ」と少年はさびしく答えた。戦争で身内を失い老人のような諦念を持った孤独な少年に、なんとか希望を持たせようと思ったと中村医師は記していた。それを読んだ私の背筋に血が巡る感覚が久々によみがえり、この人の本を出したいと思った。バブル景気で浮き足立った消費社会を斜めに見て、ひねた気分の私のなかで何かが目覚めた。

私はペシャワール会を訪ね中村医師と連絡を取った。その２年後にそのエッセイを含めた文章は、『ペシャワールにて　癩そしてアフガン難民』という中村医師の第一作となった。その時私には、ある予感があった。「この人の本を作ったら、著者と出版者という関係ではすまなくなるだろうな」という漠然とした予感である。しかしその後パキスタン・アフガニスタンに２０回以上行くことになろうとは、思ってもいなかった。のちに私は自分の中村医師への気持ちが何であるのかを理解した。私は中村医師に嫉妬したのだ。何に嫉妬したのかと言うと、中村医師のアフガン難民やハンセン病患者への〈関係の深さ〉に嫉妬したのである。

数年前、私は中村医師に「先生の後継者はどうするのですか？」と尋ねたことがある。中村医師は答えた。

「私の後継者は、用水路だ」

中村医師亡き後も、ヒンドゥクシュの山々を水源とするクナール河から取水した用水路は、ジャララバードの東に拡がる沃野を潤し、アフガンの大地に恵みを与え続けている。

（ふくもとみつじ・石風社代表）

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

『死者ゼロの真相 －長崎クルーズ船新型コロナ災害との激闘』●監修 / 河野茂　編集 / 崎長ライト

感染者712人、死者13人、新型コロナウィルス集団感染で横浜港に係留されたクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の動向は、日々セーショナルに伝えられた。2ヵ月後、623名が乗船したコスタ・アトランチカ号の長崎入港は、一時横浜の再現かと騒がれたが、149名もの陽性者を出したにも拘わらず、地元以外では殆ど報じられることはなかった。理由はウイルスを封じ込め、死者を出さなかったからだ。死者ゼロは奇跡だったのか。そうではない。そこには自らも感染の不安と風評被害に悩みながらも懸命に対応に当たった人たちの壮絶な闘いがあった。

本書はその迫真のドキュメンタリーである。ドキュメンタリーは、陣頭指揮に当たった長崎大学学長で感染症内科医の河野茂と愛弟子で同大学病院感染制御教育センター長泉川公一の激しい口論から始まる。無理を承知で患者を救うのが医者の仕事と指示する学長、医療崩壊になると机を叩いて反論するセンター長。だがそれは、二人の信頼関係があってのことだ。多くの医療従事者、県行政職、自衛隊、ＤＭＡＴ（災害派遣精神医療チーム）、厚生官僚、帰国する乗組員を空港まで運んだバス会社の心意気など、まさにチーム長崎となって、緻密な対策のもと、必死に努力する姿がずしりと伝わってくる。でも、どこかユーモラスな感じもあってほっとさせられる。巻末の、長崎大学人による小論数点も、コロナウィルス理解に有用である。

（飯澤文夫）

◆1500円・四六判・324頁・**長崎新聞社**・長崎・202010刊・ISBN9784866500157

『まんが・イラストでみる江戸の暮らし　衣・食・住』●ポケット倶楽部編集室編著

江戸時代、江戸の町には日本各地から人が集まり世界でも有数の大都市となりました。そんな江戸を舞台にした小説・時代劇・落語なども数多く存在します。しかしそこに住んでいた人たちが一体どんな暮らしをしていたのかというと、具体的なイメージがわかないときもあるのではないでしょうか。本書は当時の江戸の人たちがどのように暮らしていたのかをマンガやイラストを用いてわかりやすく解説してくれます。当時の服装であったり食べ物であったり、はたまた子育てなど話題は多岐にわたります。落語にもよく出てくる長屋であれば、その間取りから家賃あるいは大家と店子との関係まで。大家が住宅の所有者ではなかったとは初めて知りました。不動産関係の雑誌連載のせいかそれに関連した話題は多く取り上げられています。日用品は使えなくなるまで再利用するのはもちろん、糞尿までも肥料として使う循環型社会。そしてモノをあまり所有せずレンタルするのも当たり前という江戸時代の暮らしには学ぶべきものもありそうです。豆腐や納豆など植物性たんぱく質を多く摂っていたところも見習いたいところ。

一方で長屋にはプライバシーなど無く物音は筒抜け、お産には迷信のようなしきたりがあり、乳児死亡率も高い。高額なため庶民は滅多なことでは医者にかかれないといったシビアなところにもふれられています。きっと江戸の町がよりいきいきとまたより身近に感じられるようになるでしょう。（副隊長）

◆1000円・A５判・111頁・**ノラ・コミュニケーションズ**・東京・202009刊・ISBN9784903948904

『ハッピーライフ』●北大路公子著

“入れ替わり”と聞いて何を連想するだろうか？　ＳＦ的世界や替え玉殺人・受験といったブラックな印象を持つが、この小説ではあらゆる感情が等しく平らになるように人が入れ替わり、日常が進んでいく。

北大路公子といえば、ネットの公開日記をまとめた『枕もとに靴　ああ無情の泥酔日記』でデビューし、数々の抱腹絶倒のエッセイを出版し、根強いファンが多い札幌在住のエッセイストだが、本書は著者初の連作短編集。笑いを誘うエッセイとは真逆のような世界が広がっている。商店街のある穏やかで静かな町を舞台に人々は入れ替わりを繰り返す。喜びも悲しみも絶望も希望もない“均された世界”を手に入れた人々は感情を書き残す日記も、昔の話が書かれた古い本も必要としなくなったが、以前の自分を抱えたままの人も存在する。たとえば第五話「本当の家族」では妻に「心がないのね」と非難され、家出される夫が主人公だが、妻の家出先は“替わらない人々”が暮らすアパートだった。

さらに第六話には替わる前の残思が膜となって顔に貼りつく人を混乱から救うため、膜を回収する女が登場する。ラストの第八話は旅先で失踪した夫らしき人物からの電話で町を出る妻の決意が描かれる。入れ替わる人と入れ替わらない人。均された世界と尖った世界。どちらが“ハッピー”なのか。揺らめく今の時代を象徴するかのような不思議な味わいとかすかな恐怖に彩られた奥が深い短編集。（Y）

◆1500円・四六判・109頁・**寿郎社**・北海道・202009刊・ISBN9784909281302

地方小出版流通センター　ジャンル別新刊案内

2020年10月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

【雑誌】

◆**編集部が本気で選んだ宮城を楽しむおでかけ＆宿**　プレスアート編　285mm × 210mm　160頁　１８００円　プレスアート　［宮城］　978-4-503-22165-0　20/09

◆**Ｓ－ｓｔｙｌｅ**　１１　ｖｏｌ．６７１　プレスアート編　298mm × 232mm　143頁　４５０円　プレスアート　［宮城］　978-4-503-22178-0　20/11

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　４９０　２０２０年１０月号　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２５４６円　地域環境ネット　［埼玉］　978-4-909864-22-2　20/10

◆**ほほづゑ**　第１０６号　長谷川　智恵子編　Ａ５　115頁　５５６円　三好企画　［千葉］　978-4-908287-32-9　20/10

◆**かまくら春秋**　Ｎｏ．６０５　２０２０年９月号　伊藤　玄二郎編　Ｂ６　105頁　３２７円　かまくら春秋社　［神奈川］　978-4-7740-0810-3　20/09

◆**道**　Ｎｏ．２０６　木村　郁子

新刊ダイジェスト ― 拡大版

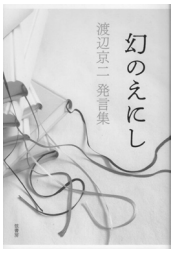
『島津氏と霧島修験 ―霊山霧島の山岳信仰・その歴史と民俗』●森田清美著

修験道は平安後期から鎌倉初期頃にかけて、仏教（密教）・山岳信仰・神祇信仰・道教などが融合して成立したものと考えられている。その目的は「即身成仏」であり、「験力」の獲得である。山野を駆け巡り、自然のエネルギーを身体に感受させる峰入り行が重視された。霧島山の場合、過去に何度も噴火しており、畏怖と畏敬の念から信仰の対象、霊山となったと推測できる。全国各地に残る擬死再生儀礼の「胎内くぐり石」も霧島山にあり、現在もくぐり儀礼が行われている。なお、霧島山そのものが胎内とみなされており、入山・下山それ自体が擬死再生行為であるという。冒頭で著者は、霧島修験なる行者および集団が存在していたかどうかは解明途上であるとことわりながら、霧島山や山麓で活躍する修験者（山伏）たちの活動を史料から読み解いていく。一般的に中近世に活躍する修験道は、神仏習合による本地垂迹説と密接な関係にある。例えば、熊野三山の場合、本地仏はそれぞれ阿弥陀如来・薬師如来・千手観音である。霧島山においては、近世に登場した真言密教僧の空順法印によって、霧島山＝極楽浄土、霧島神＝阿弥陀如来の垂迹神という山岳宗教観が生まれた。著者によると、かれの思想の根底には真義真言宗開祖・覚鑁（かくばん）の思想があったという。修行により「験力」を身につけた修験者は俗世間の人びとの不安や願いに答える立場にあり、その対象は為政者も例外ではない。15世紀以降、島津氏は霧島神を軍神として崇拝するようになり、合戦のたびに修験者の呪術や祈祷の効力に頼るようになる。初めは奥州家と総州家という島津一族同士の内乱が中心だったが、やがて戦国大名に成長していくと、隣国の日向の伊東氏や豊後の大友氏などとの領土拡大戦争へと発展していく。戦勝祈願や敵対者の調伏などを霧島権現・白鳥権現・東霧島権現など霧島六所権現に依頼する願文が出現する。信仰は過剰を極め、戦に出陣するか否かさえも御鬮（みくじ）を引いて神意を占ったりした。伊東氏滅亡後、伊東一族の怨霊を鎮める供養を依頼するなど御霊信仰の存在も確認できる。近世中期以降の修験者らは、城下町や農村に定住するようになり、加持祈祷や招福除災の配札などに従事するなど民衆の身近な存在となる。霊山登拝も流行し始め、南九州の広範囲で霧島講が結成されるなど、霧島神が稲作の神として民衆の間で篤く信仰された。（I）

◆2000円・四六判・281頁・**鉱脈社**・宮崎・202009刊・ISBN9784860617660

◇

『幻のえにし ―渡辺京二発言集』●渡辺京二著



熊本在住の日本近代史家、思想史家による最近の講演や対談、インタビューをまとめた発言集。著者は代表作『逝きし世の面影』のほかに多彩な著書をもつ一方で、作家・石牟礼道子さん仕事を、その死まで半世紀にわたり支えてきたことで知られる。本書の第I部はその石牟礼道子さんについての講演が収められているが、著者だからこそ知る石牟礼さんの意外な顔がとにかく次から次へと語られ、これが実に面白いのである。そもそも石牟礼さんの『苦海浄土』は、著者主催の『熊本風土記』に掲載されたことも端緒のひとつだったわけだが、二人の関係は単に作家と編集者というよりも、才能豊かなタレントと事務所のマネージャーを連想させる。「とにかく石牟礼さんが、僕をありありと便利がってさ、いろいろ頼むんだよ。ははは、僕は頼みやすいんだなと思ったんだよ」。これは、出会って最初の頃を回想しての言。「あれ（『苦海浄土』）はほかのとは断然違う。宝物だから。あんなものは編集者としてなかなかもらえるものじゃない。あんな良い原稿をもらって、しかも、タダだから、これはやっぱり、それに応えないといけないなと」。それから半世紀、原稿の清書から仕事のマネジメント、身辺の世話までこなし、その御苦労は膨大なノートをはじめとする遺された資料の保存整理をする現在まで続いている。

石牟礼さんのほかに、著者の回想に多く登場するのが、谷川雁さんや吉本隆明さんだ。「なんたって肝心なことを教えてくれた。いろいろ考えが違うところはあるけど、才能っていう面ではね、すごい人で、かなわない。文章とか見たら、もうかなわないと思う人はあの人だけですね」とは、吉本さんを回想しての言葉である。著者が現在辿り着いた場所と言っていい次のような思考には、吉本さんの大きな影響の跡を読み取れるのではないか。「自分というものがこの世に生まれてきて満足するような人間のあり方というのは、一人一人が独立するしかないんですよ。一人一人が独立してね、自分の主人公になってね、そういう本当に独立した人間がある地域を介してね、地域というのは土地、土地というのは自然ということでもあるけれども、そういうものを介して、お互いが結びついて、その地域の生活を守り抜いていくということしか無いんですよ」。ほかに、著書『夢ひらく彼方へ ファンタジーの周辺』に関連して、スタジオジブリの鈴木敏夫氏との間で行われた対談も収録されている。なお本書のタイトルは、石牟礼道子さんの詩『幻のえにし』から採られている。（N）

◆2200円・四六判・266頁・**弦書房**・福岡・202010刊・ISBN9784863292123

＊

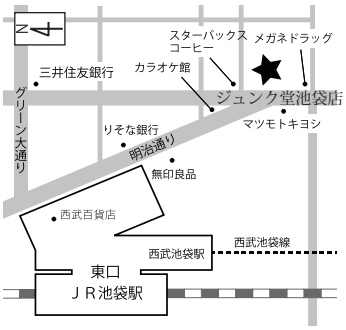
ジュンク堂書店
淳久堂書店

池袋本店
営業時間：月～土 / 午前10時～午後11時
日・祝 / 午前10時～午後10時

池袋であなたのふるさとに帰ってみませんか？

９階「ふるさとの棚」では、
地方・小出版流通センター扱いの
ご当地本を幅広く取り揃え、皆様の
お越しをお待ちしております。

〒171-0022
東京都豊島区南池袋2-15-5
TEL　03-5956-6111
http://www.junkudo.co.jp



売行良好書

期間：2020年10月15日～11月14日
※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

［出荷センター扱い］

(1)『浅田家』2600円・赤々舎　(2)『世界のひきこもり』1800円・寿郎社　(3)『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア』1800円・アスク・ヒューマン・ケア　(4)『子どもへの詩の花束』1800円・竹林館　(5)『東京の森のカフェ』1300円・書肆侃侃房　(6)『銀河鉄道の夜・四次稿編　第1巻』1700円・風呂猫　(7)『アルバムのチカラ　増補版』2200円・赤々舎　(8)『未来ちゃん』2000円・ナナロク社　(9)『幻のえにし』2200円・弦書房　(10)『東京時層探検』1700円・書肆侃侃房　(11)『菜食主義者』2200円・クオン　(12)『荷を引く獣たち』2800円・洛北出版　(13)『現代語訳　上井覚兼日記』1800円・ヒムカ出版　(14)『海の上の建築革命』2400円・忘羊社　(15)『復元！被爆直前の長崎』3000円・長崎文献社

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］

(1)『昭和プロレスマガジン　５３』909円・昭和プロレス研究室　(2)『本の雑誌　４５０号』800円・本の雑誌社　(3)『東京かわら版　１１月号』545円・東京かわら版　(4)『百年の轍』1500円・書肆侃侃房　(5)『ことばと　ｖｏｌ．２』1700円・書肆侃侃房　(6)『疫神病除の護符に描かれた元三大師良源』900円・サンライズ出版　(7)『推理作家の出来るまで　上巻』2000円・フリースタイル　(8)『戦国時代は何を残したか』1700円・信濃毎日新聞社　(9)『Ｌｉｌｉｔｈ』2000円・書肆侃侃房　(10)『暗がりで本を読む』1600円・本の雑誌社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］

(1)『新版　奥多摩登山詳細図　東編　全１４８コース』900円・吉備人出版　(2)『調査されるという迷惑』1000円・みずのわ出版　(3)『上井寛兼日記』1800円・ヒムカ出版　(4)『出雲の祭りと地域文化』1500円・今井出版　(5)『紀貫之の土佐日記は航海記』2000円・リーブル出版　(6)『自然農 栽培の手引き』2000円・南方新社　(7)『備前刀の歴史』1000円・吉備人出版　(8)『自転車大好き　３号』500円・ブックショップ「マイタウン」　(9)『沖縄で新聞記者になる』1200円・ボーダーインク　(10)『太田資正と戦国武州大乱 実像と戦国史跡』1800円・まつやま書房　(11)『朝鮮人とアイヌ民族の歴史的つながり』2200円・寿郎社

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

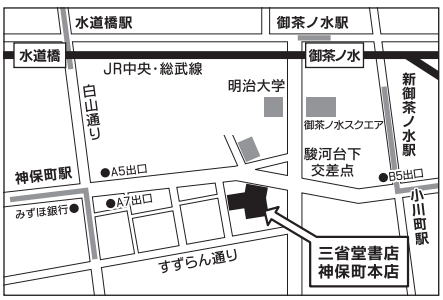
トピックス――★★★

▼本の需要が減って、出版社は品切れになっても、売れる見込みがないものは再版を控える傾向がこの10年余顕著になっています。品切れでも、ちょっと傷んだ本は結構ありますが、現在の出版流通においては、品質保持ということで、少しでも傷んでいる本は返本となります。読者に説明して、傷んだものでも「良し」ということで届けられるのはほんの一部でしょう。先日、話題となっているアメリカの人類学者デビッド・グレーバーの【ブルシット・ジョブ】のブックフェアーを難波のジュンク堂書店が企画し、その関連書として、弊社扱いの「アナキズム」誌編集委員会発行、**ボブ・ブラック著【労働廃絶論】**が選ばれて５冊の発注がありましたが、品切れ寸前で３冊しかなく、この３冊を送品しました。しかし、このうち２冊は上下逆さ綴じの不良本でした。不良本として返品されるものと思っていましたが、ジュンク堂書店難波店さんは、もう品切れであり、「逆さ綴じ」の主旨を告知・展示して販売を継続したそうです。１冊は売れ、もう１冊は棚に並んでいるとのことです。最期の１冊まで大切に販売してもらえる、幸運な書籍です。

（【地方・小出版流通センター通信No.1444】から）

【郵便販売のご注文方法】

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

三省堂書店 BOOKS SANSEIDO
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。